

週 報

1989年11月5日 降誕前第8主日

聖徒の日(永眠者記念日)

巻 10 32号

1989年度教会主題

「神の言葉に従う」

聖句 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。」……アブラムは主の言葉に従って旅立った。

創世記12章1節、4節a

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 新会堂の建築計画を完成する。

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

会堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13394

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 秋 吉 隆 雄

れなかったからではないか。

現代史は、①東欧に顕著に見られる民主化の要求、②地球の危機を救おうというエコロジー、③軍縮と核兵器の削減の3点が問われている。個々人が人間としての中身を深めながら、この時代の問題と関わって生きることが、私たちの国際化であると話された。

説教では、現代は利益と快樂追及の強者の論理で動いている。ここでは弱者が切り捨てられ、見えなくなっている。パウロは「強くない者の弱さを担うべきであり」と語っているが、弱者に仕える時自分の本当の姿が見えてきて、優しさと謙遜が生れる。パウロのこの勧めは、もちろんイエス・キリストの十字架の愛の事実から発している。私たちは悔めで、はかない存在だけれども、かけがえのない意味を持った命であることを知り、自分の人生を発見しようと語られた。先生は静かながら、情熱的に話された。お忙しい中、私たちの教会のため奉仕してくださったことを嬉しく心から感謝した。

一 牧師室から一

特別伝道集会は明治学院大学学長の森井眞先生に来ていただき、有益な講演とすばらしい説教を聴くことができた。講演で日本の過去の歴史から話された。明治以降「脱亜入欧」の理念で富国強兵政策を取った日本は、個人の尊厳より全てが国家優先であった。孫文が「個人の尊厳を守らない国家は他国に対してもそうする」と言ったように、日本はアジアを侵略し生命と財産を奪った。

戦後、日本は幾度か国際政治で平和と人権擁護のため発言すべき時があったが、アメリカ追従の姿勢を変えなかった。国際的に通用する価値観と理念を持たなかったのは、15年戦争の体験が生かさ